特色ある取組を行っている学力向上フロンティアスクールの事例様式

都道府県番号	２５
都道府県名	滋賀県

【 ①□ ②■ ③□ 】
＊重点をおいた観点にチェックすること

Ⅰ　学校名及び規模

学校名	長浜市立南中学校					
学　年	１　年	２　年	３　年	特殊学級	計	教員数
学級数	３	３	４	２	１２	２２
生徒数	１００	１０６	１３２	５	３４３	

Ⅱ　研究の概要

（１）　研究主題

楽しい英語、分かる英語、使える英語を目指して

（２）　研究主題設定の趣旨

本校の生徒は、身近なことを英語で話すことに苦手意識を持ち、話すことに消極的な生徒が多いというのが現状である。しかし、英語は将来役に立つと考え、英語で話すようになりたいと思っている生徒も多くいる。本研究においては、こうした子どもの実態を踏まえ、英語の基礎基本の定着と実践的コミュニケーション能力の育成を図り、臆せずに自信を持って英語が使える生徒を目指すべく本主題を設定した。

Ⅲ　研究の概要（選択した観点を中心に記述すること）

（１）　研究推進体制の工夫

どこか１学年で取り組みを実施するため、３人いる英語科とＡＬＴの授業調整を事前に行い、教師一人あたりが関わることができる人数が多くならないように考慮した。こうした実践については、該当学年だけでなく他学年の協力体制も必要となってくる。

（２）　研究の実際

ＦＵＮ　ＦＵＮ　ＥＮＧＬＩＳＨ

期末テストの直前２時間を設定し、テストに向けてさらに理解を深め、定着を図ることを目的とする。内容は、教科書のテスト範囲が確実に読めるようになることと、単語、基本文型の理解で、ベーシックコースとアドバンスコースを設け、生徒の希望を元に１クラスを２コースに分けた。多少、人数に片寄りがあったが、ＡＬＴの協力も得て、ほぼ希望どおり実施できた。

基本的には、両コースともに指導内容は同じであるが、アプローチの仕方に違いを持たせた。アドバンスを選んだ生徒は、教科書がすらすらと読めて、基本文も理解できていると自分が思っている子供たちなので、リーディングについてはよりナチュラルスピードに近づけることと、正しい発音（子音、母音、アクセント、イントネーション）等に留意させて、ＡＬＴの協力を得て練習させた。文型プリントについては英語を日本語に、日本語を英語に、という両パターンを基本から応用、発展まで作成し、それぞれのコースに合わせて問題を作成し、生徒の文型理解の定着を図った。

また、アドバンスでは、クラスルームイングリッシュを使い、ＡＬＴやＪＴＥとのやりとりもできるだけ英語で行った。さらに、今年度は、昨年度から一歩進めて、基本文型を応用してのＡＬＴとの１対１での会話を取り入れて、実践的コミュニケーション面での発展活動とした。

ベーシックコースにおいては、まず本文が読めることを目標とし、読みにくい単語は何度も練習し、個人的に関わりながら、読めないところがないようにした。

また、文型プリントについては最初に全員でポイントを押さえてから、必要事項を十分確認・理解させてから、英文を見て日本語で復習していく形式を取った。

ベーシックコース

	生徒	教師
一時間	・ テスト範囲の単語指導をする。 ・ 本文読み練習をする。（テスト範囲の本文をすべて通し読みをする。 ・ 単語、基本文プリントをする。 ・ 自己採点をする。十分理解できないところを質問する。	・ フラッシュカードを使って、英語から日本語、日本語から英語を全体個人で練習する。 ・ 目標タイムを設定し、一斉練習した後、個人練習させながら、机間指導個別指導する。 ・ アドバイスする。 ・ 質問事項を全体に説明し理解させる。 ・ 次時の予告をする。 本文読みと２回目テスト ＡＢＣで評価、基準を明確にする。
二時間目	・ 各自、本文読みと文型プリントの見直しをする。（１０分） ・ 文型プリントをテスト形式で受ける。 ・ 本文通し読みをする。 ・ 英語の質問に英語で答える。	・ 机間指導しながら、最終の確認ができるように、アドバイスする。 ・ 一人ひとりタイムを計りながら、読み間違いなどに留意して、本文読みを聞く。その都度注意するのでなく、読み終わってから確認する。 ・ ＡＢＣで評価する。 ・ 基本文型を使った質問に応じた答え方ができているかどうか確認し、不十分な場合は適切なアドバイスをあたえる。

アドバンスコース

	生徒	教師
一時間目	・ ＡＬＴのモデルリーディングを聞く ・ 本文読み練習をする。（テスト範囲の本文をすべて通し読みする。） ・ 本文内容について英問に答える。 ・ 単語、基本文プリントをする。 ・ 自己採点をし、間違いを理解する。 ・ 予告を聞いて、ダイアローグの内容を理解する。	・ ナチュラルスピード、アクセント、イントネーションに留意させる。 ・ 目標タイムを設定し、巡視しながら個別指導をする。 ・ 英語で質問する。 ・ 机間指導しながらサポートする。 ・ 次回の予告をする。 本文読みと２回目テスト ＡＢＣで評価 ＡＬＴとの会話（モデルダイアローグを渡す。）

二時間目	・　各自、本読みと文型プリントの見直しをする。 ・　文型プリントをテスト形式で受ける ・　本文通し読みをする。 ・　ＡＬＴと会話する。	・　机間指導しながら、最終の確認ができるようにする。 ・　一人ひとりタイムを計りながら、発音、イントネーションに留意して、本文読みを聞く。 ・　ＡＢＣで評価する。 ・　ＡＬＴは、一人ひとりの生徒と会話する。その際、オリジナルな表現を入れながらその応じ方を含めて評価する。

コミュニケーションの観点でのアプローチの違い

ベーシックコース

Teacher　: Have you ever been to U.S.J.?
Student　: Yes, I have.　How about you?
Teacher　: I have been there two times.
Teacher　: Do you know how to cook nikujaga?
Student　: Yes, I do.　Do you know how to cook okonomiyaki?
Teacher　: Yes, I do.　It's very easy for me to cook okonomiyaki.

アドバンスコース

ALT　:　Hello, Akira.
Akir　:　Hello, Sara Sensei.
ALT　:　How are you?
Akir　:　Fine thank you.　And you?
ALT　:　I'm sick.
Akir　:　That's too bad.
ALT　:　What time did you get up this morning?
Akir　:　I got up at six.　How about you?
ALT　:　Me?　I got up at six thirty.　I've been to Hokkaido.
Have you ever been to Hokkaido?
Akir　:　No, I haven't. I want to go there.　Do you know how to cook nikujaga?
ALT　:　No, I don't.　How about you?
Akir　:　I know it very well.　It's easy for me to cook nikujaga.
ALT　:　Please teach me how to cook it.

ベーシックでは、語句を替えて質問を理解して、正しく答えられるかを見ていく。アドバンスでは、挨拶に始まって日常的な質問をして、基本文を使った会話へと進んでいくので、ＡＬＴは表現をいろいろ変えて質問する。生徒には答えるだけでなく会話が続いていくように必ず問い返すことを指示しておく。

（３）　研究の成果と課題

テスト前の限られた時間であったが、どちらのコースも生徒たちは意欲的に頑張って取り組むことができ、少しでも理解し、力をつけたいという姿勢が見られた。テスト前のリーディングは、思っていたよりもたくさんの子どもがやっておらず、集中した練習でかなりの向上が見られた。基本文においても同じ問題で評価したので取り組みやすくかなりの進歩が見られた。

事後のアンケートでは、ベーシックの子供たちはもう一度授業をしてもらって定着を図りたいという思いが強く、繰り返すことによって理解定着が図れるものと思われ

る。リスニングもやりたいという感想も多く、以後参考にしたい。
　アドバンスでは、「本を読んだり、会話したりするとしゃべっている気がしてよかった。」「もっとＡＬＴの先生と会話がしたい。」と言う感想が多く、子供たちは英語を話せるようになりたいと強く思っていることが分かる。
　こうした活動を行うためには、時間割をくんで教師を割り当てたりすることが必要であり、どのような形でどういう場面でより多く取り入れていくかがこれからの大きな課題である。

（４）研究成果の普及の方策

学力向上フロンティア事業公開授業実施
日時　　平成１５年１１月１９日　（火）
場所　　長浜市立南中学校
テーマ　「楽しい英語、分かる英語、使える英語を目指して」
内容　　公開授業　　英語・・・少人数授業
　　数学・・・少人数授業

平成１６年度については、日時は未定であるが、１１月頃に公開授業と研究協議会を実施する予定である。

（５）　その他（その他特色ある取組等がある場合に記述）

◇　次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】　□１５年度からの新規校　■１４年度からの継続校

【学校規模】　□３学級以下　□４～６学級
□７～９学級　■１０～１２学級
□１３～１５学級　□１６学級以上

【指導体制】　■少人数指導　■ＴＴによる指導
□その他

【研究教科】　□国語　□社会　■数学　■理科
■外国語　□音楽　□美術　□技術・家庭
■保健体育　□その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　■有　□無

【特色ある取組事例として紹介したいポイント】

アプローチに違いをもたせながら、理解・定着を図っていく少人数指導のあり方